

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2145号

2013年01月15日(火曜日)

《 a rising star = Myanmar 》

先週の市場は私が指摘した「エコノミストの目とマーケットとの齟齬」を埋め合わすかのように微調整の期間を前半に入れながらも、その後は再び円安・日本株高の方向に動きました。東京市場が休み中の週明けの海外市場では、ユーロ・円は一時1ユーロ=120円となった。ただしドル・円相場は90円のレベル突破はなく、今も89円台となっている。今朝の日経新聞の記事ではないが、「円安、適正水準は？」といった議論がそろそろ出てきてもおかしくない時期だ。ただし暫くは、「円安の限界」「株高の限界」を試す動きが時間を置きながら続くだろう。

さて今週から何度かに渡って「アジア最後のフロンティア」と呼ばれるミャンマーの今をお伝えしましょう。私が同国に行ったのは、2012年の12月26日から2013年の01月04日まで。ヤンゴン、タチレク（東のタイ国境との町）、チャイントン（その北にあるアカ族の街）、中部のヘーホーとその近郊のインレー湖、そして古都バガンなど。後で触れるが、ミャンマーは人口が全体で6200万人ほどだが、ヤンゴンにはその約一割が住んでいると言われる。同国を訪れる人は大体がこのヤンゴンから入る。我々もそうで、ネビードーが新しい首都に選ばれるまではヤンゴンは首都だった。今でも最大の商業都市で、他の都市との違いは「バイクが許されていない」こと。その他の都市については、その折々に触れたい。

ずっと乾期に当たり、旅行中は雨が一回も降らなかった。10日間近くを過ごして印象として強く残ったのは、「既に凄まじい数の観光客が訪れている」ということだ。「閉ざされた国」という印象はない。ビジネスマンではなく、「有名リゾートを楽しみ尽くし、既に世界各地を訪れているであろう欧米の裕福な旅慣れた高齢者」を多かった。「発展しつつある国」ということでビジネスマンが圧倒的と思ったら大間違いだ。

活気もある。日本からタイのバンコクに行き、そこで乗り換えてヤンゴン（旧首都）に入ったが、飛行機は満杯。行きも帰りも。もっと言えばミャンマー国内の主要都市を国内航空会社（4社ほどある）が網の目のように路線を張っているが、その国内路線の飛行機も極めて常に混んでいて、航空機はミャンマー国民の足になっていた。道路や鉄道が一位と言うこともあるが、「もう既に開発は始まっているし、世界中から人が流れ込み始めている」というのが偽らざる印象なのだ。

年末・年始以外はビジネスマンも多いことだろう。政府関係者も。私がミャンマーを去るときには、日本の麻生財務大臣が一人を引き連れてミャンマー入りしていた。各企業のミャンマー詣でも激しいと聞いた。観光客としての日本人が訪れるのは、古都と呼ばれるバガン(パゴダ=寺院が2000もあると言われる)などが多いが、実はミャンマー中部のインレー湖などは見事にリゾート開発が進み、そこに欧米の観光客がわんさと詰めかけていた。ここには日本企業出資のリゾートホテルも出来ていた。

日本人はミャンマーと聞くと「熱帯に近い国」「暑い」と思うかも知れないが、気候・風土も実に多様だ。我々日本人が抱く画一的なイメージとは全く違う。まず気温だが、ヤンゴンなどは冬でも日中は30度を軽く超える。しかしそれより北のヘーホーという空港からそれほど遠くない中部のインレー湖は、高地と言うこともあるし、湖の畔と言うこともあるが、年末・年始のこの時期は朝晩は暖房を入れなければならないほど寒かった。ホテルのハウスキーパーは我々が食事をしている間にベッドの中に湯たんぽを入れてくれていた。日中も湖面を渡る風が気持ち良くて、日差しは強いので日焼けするが、日陰に入れば涼しい。ミャンマーは今が「乾期」で観光には最適の時期であり、故にそれを良く知っている欧米の観光客が旅行社の勧めもあって押し寄せている、という印象だ。

《 Europeans rushing to Myanmar 》

少し統計を紹介しよう。直近の統計で今一番ミャンマーを訪れているのはドイツ人だそう。ドイツ人はタイに行っても多いが、その隣のミャンマーが今はブームになっているらしい。次がイタリア、そして三位がフランスだそう。確かにどこに行ってもそういう感じの観光客がいっぱいた。インレー湖でもバガンでも、ものすごくインターナショナルなのだ。インレー湖上の織物工場に隣接して出来ているお土産物屋さんでイタリアの女性が「10ドルにしてよ」と値切っているかと思えば、別の建物にある首長族(本当に首が長くなっている)の女性や、それを見て笑う観光客を見てアメリカ人が怒りをあらわにしていたり、水上レストランではドイツ語やイタリア語が聞こえ、ホテルに帰ればスペイン人が比較的静かな声で話している、という感じ。

アメリカ人について言うと、私たちのガイドをしてくれたウィーさんが「オバマも来て、アメリカ人も増えつつある」と語っていた。それに対してアジア人は影が薄い。隣国である中国の人達がやっと5位に入り、一つ置いて7位が韓国、そして9位が日本だという。同じアジアの国なのに、残念なことだ。確かに世界中の観光地に行けば必ず出会う日本人の団体は見かけなかった。見かけたのは「バンコクから来ました」「福岡から来ました」といった、どちらかと言えば個人仕様の旅好きだった。日本人が比較的少なかったのは、年末・年始という事情もあるかもしれない。

ミャンマーは統計を見ると「まだまだの国」の印象が強い。国土の広さは日本の1.8倍に当たる68万平方キロメートルで人口は日本の半分の6200万人ちょっと。国民一人当たりのGDPはIMF統計(2010年)では702ドルとなっている。直近のIMF統計では4

382ドルとなっているがその後の経済発展で5000ドルを大きく超えてきた中国に比べても、また隣国であるタイの2011年の5394ドル（外務省統計）に比べても大きく出遅れた国だ。ちなみに日本の国民一人当たり GDP は円相場次第だが約3万5000ドルには達している。

しかし行ってみると「ここは豊かな国だ」と思えることが一杯ある。まず田圃が日本の秋田県のそれのように綺麗に整備されて、飛行機の上から見ると「国土がよく使われている」と思う。それから収穫できるコメは多品種で、街のマーケットにある米屋には実に多様なお米が置いてある。野菜や果物も豊かだ。ヤンゴンのスーパーも覗いたが、実にモノが豊富だ。もう一つ意外だった点を挙げれば木々が、森が豊かだということだ。他のアジアの国、例えば中国の中部から北部などは、山に大きな木が殆どない。はげ山状態だ。しかしミャンマーは違う。まるで日本のように「トトロの森」がいっぱいある。田圃が多いことと合わせて、そういう意味でも国土は景観的には日本に近い。

筆者が思ったことは、「この国は絶対に発展する」ということだ。オバマが昨年の秋に訪問したことから俄然注目を浴びて、日本企業の関心度は高いと聞いていたが、それだけの魅力はこの国にはある。何せまずスタート台が低い。繰り返すが、国民一人当たりの GDP が700ドルちょっとと言えば世界でも最貧国だ。しかし改めて書くが、「ものすごく豊かだ」とも感じる。コメなどは国土の大部分で三毛作だ。加えて天然ガス資源もある。貿易収支は既に黒字基調だ。

さらに人々の手先が非常に器用だ。我々のガイドをしてくれた30代半ばのウィーさんは、私が現地ですら買った肩掛けのバッグの紐をバッグ部分から切らしてしまったら、「ちょっと待って下さい」とお店の女の子から裁縫道具を借りて、さっさと縫い合わせてくれた。何を作らせてもうまそうで、ベトナム人に似ている。ちょっとしたバイクの修理など自分でしてしまうそう。それなのに今までは経済制裁で外資が入ってこずに「これといった産業がない」のだから、日本など外国からお金が入ってその下地が出来れば、産業が直ぐに立ち上がる気がする。

今のミャンマーに「これ」といった産業がないのは、専ら「長らく経済制裁を受けていた」からだ。国内には資本の蓄積がなかった中で、制裁故に海外のお金が入ってこなかった。中国がもっぱら外の資本で発展していることを思えば、それがなかったのだから発展が遅れたのは当然だ。しかし今後は有力だ。何よりも中国が狙うほど天然ガスなどの資源も豊富だ。地政学的にも有利な場所にある。二つの人口大国（インド、中国）と国境を接する。今でも貿易収支は黒字なのだから、これで産業が入って縫製などを切っ掛けに大規模な工業化が進めば、ミャンマーは大きく変容する可能性がある。いや、発展は確実だ。そういう意味では、アメリカや日本、それにヨーロッパがこの国に熱い視線を送るのは当然だし、それだけの可能性があると思う。

しかし課題も多い。次回はそれに触れる。

今週の主な予定は以下の通り。

01月15日（火曜日）	米12月の小売売上高 米1月のニューヨーク連銀製造業景気指数 米12月生産者物価 ローゼングレン、コチャラコタなど地区連銀総裁が講演
01月16日（水曜日）	米12月の消費者物価 米12月の鉱工業生産 米12月の設備稼働率 米1月のNAHB住宅市場指数 ベージュブック
01月17日（木曜日）	米12月住宅着工件数 米12月建設許可件数 米1月のフィラデルフィア連銀製造業景気指数
01月18日（金曜日）	中国10～12月期GDP 中国12月鉱工業生産 中国12月小売売上高 中国1～12月固定資産投資 米1月のミシガン大学消費者信頼感指数

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。3連休の最後の日は関東地方、特に東京は大雪でした。都心は午前10時を過ぎたあたりから凄いい雪になり、そのうちに風も強くなった。あっという間に積もる重い、湿気を含んだ雪でした。筆者も一端所要で車で家を出たのですが、とにかくその時点でタクシーなど既に雪道に車輪をとられている車が多かった。危なすぎるので、すぐ車を車庫に戻しました。

新幹線も、発車が遅れ、加えて減速運転で時間もかかった。その前に都内での地点から地点への移動に時間がかかった。改めて「東京は、車も人も雪に弱いな」と思いました。まあでも一端新幹線に乗ると、「この大雪の中を新幹線は20分くらいの遅れ（小田原で雪の除去作業を実施など）ながらよく走る」とほんとに感心しました。空が既に駄目な状態だったので、新幹線がストップしたら関西への移動はアウト。しかしとりあえず動いた。

ネットを見たら「14日午後2時現在、京浜東北線、埼京線、宇都宮線、中央・総武線各駅停車、総武線快速電車、常磐線快速電車、東急池上線、りんかい線が運転を見合わせている」となっていたので、東海道新幹線の優秀さには拍手を送りたい気分でした。

それでは皆様には良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》